



「天、共に在り」

自衛隊札幌病院長

陸将 大鹿 芳郎

今年前半は、新型コロナウイルスによるパンデミックが猛威を振るい、多くの感染患者、犠牲者が報じられる中、さらに多くの国民が外出自粛、活動自粛を余儀なくされました。

その後もウイルスは消滅したわけではなく散発的・持続的な患者発生が続いており、この原稿を書いている時点では東京を中心に各地で第2派とも思える感染拡大の傾向がみられているところでもあります。本紙がお手元に届くころにはどのような状況になっているのでしょうか。一日も早い収束を願うものです。

全国に緊急事態宣言が発出されていたゴールデンウィーク期間中、外出自粛のためほとんどの時間を自宅（官舎）で過ごしました。幾冊かの本を手に取りましたが、中でも故中村哲医師の著書『天、共に在り』が心に響きました。ご存じの方も多いと思いますが、中村先生はアフガニスタンの灌漑事業に力を注がれ、砂漠化したアフガニスタン農地の緑化に貢献された方です。もともと、アフガニスタンの医療衛生状況を改善しようと活動されていましたが、問題の根源は地球温暖化による農地の砂漠化と大干ばつによる飢饉であると気づきます。そこで、30年以上に及ぶ灌漑事業に取り組みました。当初は徒手空拳であったものの次第に現地住民の協力を得て、最終的には主幹の総延長24.8km、一日送水量40万トン、3120ヘクタールの灌漑面積という用水路そして灌漑施設を作り上げました。地元の人々にも慕われ、2018年にはアフガニスタンの国家勲章を受章、2019年10月にはアフガニスタンの名誉市民権を授与されました。

しかし、残念ながら昨年12月、凶弾に倒れられました（本書執筆の6年後）。

本書の結びに、中村先生は「自然から遊離するバベルの塔は倒れる。（中略）科学や経済、医学や農業、あらゆる人の営みが、自然と人、人と人の和解を探る以外、我々が生き延びる道はないであろう」と述べています。そして「天、共に在り」というのが、30年間の現地活動を通して得た平凡な結論とメッセージである、と結ばれています。

人類の歴史は感染症との闘いでもありました。14世紀の黒死病、今から100年前のスペイン風邪、天然痘、結核など。撲滅したものもあれば共存しているものもあります。果たして今回の新型コロナウイルスはどうなるのでしょうか。識者といわれる多くの方が、共存していく可能性が高く、ウィズコロナの時代となるだろうと発言されています。コロナに打ち勝ち、新しい時代を築くという意味でビヨンドコロナと言われる方もいます。コロナ禍を知ることなく亡くなった中村先生ですが、ご存命ならば何と言われたのでしょうか。



「豊友会会長の挨拶」

自衛隊札幌病院豊友会

会長 黒澤 洋一

この度、令和2年4月11日に行われた役員会兼臨時総会において、前会長の古家先生から後任として推薦され信任をいただいた黒澤です。

会員の皆様にご協力いただきながら努めてまいり所存です。すのでよろしくお願い申し上げます。

私は、平成27年2月に自衛隊を退職し、その後お世話になった古家先生から先ずは会合に参加することに意義があるので1名でも参加してほしいとのご依頼があり参加だけは続けてきた次第です。

現在、新型コロナウイルスが第2波の様相を呈し、この記事が掲載される頃にはどうなっているか予想のつかない状況です。

各部隊も訓練等に影響があると考えられ、衛生の役割はウイルス対策のみならずメンタルヘルスを含め負担が増々大きくなることと予想されます。また、米中が冷戦の様相を呈してきており、災害も含め今後何が起きるかわからない先行き不透明の時代です。

札幌にもいつ派遣要請があるかもしれません。そうした中、家族支援等、会として何かお役に立てることがないか今から準備が必要と思います。

現在、新型コロナウイルスで豊友会の活動も自粛を余儀なくされていますが、これ以上長引くと会員相互あるいは札幌との親睦を深める新たな形態を模索する必要も生じるかもしれません。また、豊友会の会員数は減少傾向にあり、会勢の確保は急務です。

私の豊友会への思いは、現役時代御世話になった恩返しの気持ちと今後の札幌への応援の気持ちです。

その思いを持ち続け、会員の皆様とともに少しでも前進していきたいと思っております。

札幌病院と会員のみなさまの増々のご健勝とご発展を祈念します。

《人事異動等》

自衛隊札幌病院

令和2年春の異動「転入者」

転入先	階級等	氏名	元勤務
総務部	1佐	早崎 和寿	教育訓練研究本部
看護部	1佐	岩澤 慶子	福岡病院
衛生資材部	3佐	武井 英一	第5後方支援隊
企画室	3佐	馬淵 陽一	福岡病院
看護部	3佐	阿南 恵子	陸上幕僚監部衛生部
看護部	3佐	茂田 照子	防衛医科大学校
看護部	1尉	柳剛 伸枝	第9後方支援連隊
総務部	1尉	佐藤美也子	北部方面衛生隊
総務部	1尉	南 直樹	旭川駐屯地業務隊
看護部	2尉	菅原美也子	福岡病院
総務部	2尉	岸本 和大	別海駐屯地業務隊
看護部	2尉	後藤 綾美	北部方面衛生隊
看護部	2尉	黒神 優	第15後方支援隊
看護部	2尉	遠藤かえで	第5後方支援隊
総務部	2尉	小山 靖貴	北部方面隊第387会計隊
総務部	1曹	高橋 晃	防衛医科大学校
診療技術部	2曹	二沢 悟志	第11特殊武器防護隊
看護部	2曹	長澤健太郎	第73戦車連隊
総務部	3曹	成田 卓	東北方面隊第323会計隊
診療技術部	3曹	中山 翔平	中央病院付

令和2年春の異動「転出者」

所属	階級等	氏名	転出先
総務部	1佐	中村宗一郎	防衛研究所
看護部	1佐	大石真由美	中央病院
看護部	2佐	櫻井 尚美	仙台病院
企画室	3佐	齋藤 裕	東部方面総監部医務官付
看護部	3佐	寺内千佳子	中央病院
看護部	3佐	中野友季江	北部方面衛生隊
衛生資材部	3佐	和田 典子	補給統制本部
診療科	3佐	佐藤 大介	北海道補給処
准看護学院	3佐	養手 博恵	衛生学校
総務部	1尉	櫻庭 剛志	第10後方支援連隊
看護部	1尉	石井 李奈	北部方面衛生隊
看護部	1尉	平 政紘	福岡病院
衛生資材部	1尉	安積 彩花	衛生学校
総務部	2尉	菅原 和広	衛生学校
総務部	2尉	石黒 啓祐	北部方面会計隊
看護部	3尉	坂本ひと美	北部方面衛生隊
看護部	3尉	石黒佐栄子	第5後方支援隊
総務部	1曹	宮野 悟	第11通信隊
看護部	1曹	板橋 友則	北部方面衛生隊
診療技術部	1曹	佐内 透	札幌駐屯地業務隊

令和2年夏の異動「転入者」

転入先	階級等	氏名	元勤務
診療技術部	1佐	長川 真治	対特殊武器衛生隊
看護部	3佐	清家 尚子	中央病院
衛生資材部	3佐	水木 一博	福岡病院
診療科	3佐	大堀 壮一	郡山駐屯地業務隊
衛生資材部	3佐	高橋 沙希	対特殊武器衛生隊
看護部	1尉	井上 真澄	熊本病院
看護部	1尉	樋口 珠美	中央病院
診療科	1尉	森 和真	衛生学校付
診療科	1尉	脇田 晃充	衛生学校付
診療科	1尉	恒成 崇純	衛生学校付
看護部	1尉	村上 芳美	北海道補給処
総務部	1尉	加藤 明美	丘珠駐屯地業務隊
看護部	1尉	石出 祥子	第7師団司令部
看護部	1尉	目黒 愛美	第11旅団司令部
看護部	1尉	工藤 晶子	北部方面衛生隊
企画室	2尉	根本 志明	北千歳駐屯地業務隊
診療科	2尉	田村 肇	俱知安駐屯地業務隊
看護部	准尉	宮内 健一	補給統制本部
診療科	准尉	松本 康博	防衛大学校
准看護学院	曹長	伊藤 慎也	北部方面衛生隊
看護部	曹長	漆館 直樹	北部方面衛生隊
診療科	曹長	濱田 紀栄	北部方面通信群
総務部	2曹	藤井 啓樹	東部方面会計隊
総務部	2曹	水上 大助	第11後方支援隊
診療技術部	2曹	崎山 剛	真駒内駐屯地業務隊
診療技術部	2曹	古尾賢一郎	第1特科団第4特科群
診療技術部	2曹	山本 実穂	札幌地方協力本部
診療技術部	2曹	阿比留拓哉	第7後方支援連隊

令和2年春の異動「転入者」(事務官等)

転入先	階級等	氏名	元勤務
企画室	行(一)3	松原 剛史	北部方面総監部防衛部
企画室	行(一)3	屋代 宗敬	情報本部画像・地理部
総務部	行(一)3	泉上 美樹	函館地方協力本部
総務部	行(一)3	平井 謙次	釧路駐屯地業務隊
会計課	行(一)3	吉本 禎言	北海道補給処
医事課	行(一)3	辻原 咲	丘珠駐屯地業務隊
医事課	行(一)2	花田 明香	南恵庭駐屯地業務隊

令和2年夏の異動「転出者」

所属	階級等	氏名	転出先
診療科	1佐	岩本慎一郎	陸上幕僚監部衛生部
衛生資材部	3佐	山崎幹佳子	中央病院
看護部	1尉	山内 房美	第11旅団司令部
総務部	1尉	渡部 昌代	北千歳駐屯地業務隊
看護部	1尉	龍城 涼子	丘珠駐屯地業務隊
看護部	1尉	澤田 梨恵	第7師団司令部
看護部	1尉	大村 瞳	熊本病院
看護部	1尉	脇田 千夏	熊本病院
診療科	1尉	屋式 一輝	衛生学校付
診療科	1尉	亀山 拓永	衛生学校付
診療科	1尉	伊藤 花菜	衛生学校付
診療科	1尉	伊藤 翼	衛生学校付
衛生資材部	1尉	伊藤 頼親	補給統制本部
総務部	2尉	赤坂 智志	第52普通科連隊
診療科	2尉	今田 大介	北海道補給処
企画室	2尉	藤澤 明弘	第7後方支援連隊
看護部	2尉	木村 梨沙	仙台病院
看護部	3尉	清水 千恵	北部方面衛生隊
看護部	3尉	佐藤 和子	第11後方支援衛生隊
准看護学院	准尉	野上 英志	補給統制本部
診療科	1曹	小野ゆかり	第72戦車連隊
診療技術部	1曹	濱谷 和明	第7後方支援連隊
看護部	1曹	松原 功和	北部方面衛生隊
診療技術部	1曹	田中 政徳	北部方面衛生隊
総務部	2曹	中村 直樹	北海道補給処
診療技術部	2曹	吉村 秀生	需品学校
診療技術部	2曹	茂古沼颯子	第73戦車連隊

令和2年春の異動「転出者」(事務官等)

転入先	階級等	氏名	転出先
企画室	行(一)4	加藤 栄	中央病院
総務課	行(一)4	笠井 淳史	名寄駐屯地業務隊
総務課	行(一)4	牧下 潤	通信学校
医事課	行(一)3	吉川 啓	留萌駐屯地業務隊
会計課	行(一)3	佐藤 由則	帯広地方協力本部
医事課	行(一)3	寺林志生里	北千歳駐屯地業務隊
企画室	行(一)2	藤原 華子	陸上幕僚監部監理部

令和2年春の異動「新規採用」(事務官等)

転入先	階級等	氏名	元勤務
診療科	医(二)1	藤田 貴洋	

令和2年1月号以降の「定年退官者」

自衛官 : 青木浩司氏(3/8)
事務官等 : 齊藤克弘氏(3/31), 日野澤修氏(3/31)



総務部長
1佐 早崎 和寿

3月16日付で教育訓練研究本部研究部第1研究室教育訓練研究Gp長から総務部長に着任しました。

北海道は平成11年3月から2年4ヶ月間第25普通科連隊（遠軽）で勤務した以来18年ぶり2回目の勤務となりますが、道内唯一の自衛隊病院である札幌病院で勤務できる誇りと責任を胸に、微力ながら院務運営基盤の充実に取り組んで参りますので、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



看護部長
1佐 岩澤 慶子

この度、看護部長を拝命しました岩澤1佐です。北部方面隊の医療の要である札幌病院の看護部長の責任の重さを深く受け止め、誠心誠意職務を尽くしていく所存です。病院基本理念「心の通う信頼される病院」のために、看護力の向上・共育を看護部長要望事項に掲げ、諸先輩方が築きあげた素晴らしい伝統を引き継ぎ、方面隊及び地域に貢献できるよう努力して参ります。どうぞご支援ご鞭撻の程、よろしく願いいたします。



診療技術部長兼
救急科部長
1佐 長川 真治

この8月の定期異動で、陸上総隊隷下部隊指揮官である対特殊武器衛生隊長から診療技術部長兼ねて救急科部長兼ねて脳神経外科部長として着任しました。札幌病院は13年ぶりの勤務になります。

新病院に移転して5年が過ぎた中で、事態対処及び平素の衛生支援における方面隊への貢献と感染症や救急医療における地域への貢献を果たすべく、診療技術部の取りまとめ役と救急科と脳神経外科の先任医官として頑張る所存です。

ご指導・ご鞭撻のほど宜しく願い申し上げます。

《行事紹介》

令和元年度衛生科幹部等集合訓練 (第63回北部防衛衛生学会)

令和2年1月29日(水)自衛隊札幌病院は、北海道青少年会館コンパスにおいて、令和元年度衛生科幹部等集合訓練(第63回北部防衛衛生学会)を開催しました。学会長(大鹿陸将)は、本学会のテーマを『新たな時代における衛生の躍進』とし、訓練開始にあたり、令和という新たな時代において自衛隊衛生の進むべき未来についての議論をしてもらいたいと挨拶しました。

前北部方面総監(吉田陸将)は、「時代の大転換期における我が国の安全保障」と題した講話において、時代における日米同盟の役割、我が国を取り巻く戦略環境における北海道の役割、リーダーに求められる資質について述べ、衛生にとって極めて重要なことは、第一線救護、後送という所を徹底的に詰め、いかに損耗を減らすか、災害救援は傷病者に対する情報共有、広域搬送に対する他の組織との協力を如何に進めるかに尽きると述べられました。特別講演では、防衛問題研究家の桜林美佐講師をお招きし、「世界の視点から見る自衛隊のこれから」についてご講演いただき、国際平和協力活動が現地での活動からアジアやアフリカの国々に教育し、能力を付与する支援に変わっていくと述べられました。教育講演では、札幌医科大学保健医療学部の今井富裕教授をお招きして、「パーキンソン病治療の変遷」についてご講演いただき、治療の歴史や日常生活に表れる症状、投薬による副作用について映像を交えながらわかりやすく説明するとともに、今後の治療の展望について述べられました。

一般演題としては部隊等から7題の発表があり、第5旅団司令部衛生班の「離島医務室を活用したDCSの検証及び収容所の開設・運営に関する考察」と、別海駐屯地業務隊衛生科の「別海駐屯地禁煙施策について」が優秀演題として表彰されました。パネルディスカッションでは、「新たな時代における人材育成を考える」をテーマとし、当院副院長の菊池将補を座長として、陸上幕僚監部衛生部医務・保健班長、自衛隊中央病院看護部長、陸上自衛隊衛生学校教育部運用教官室総括担当教官、北部方面衛生隊長、第7後方支援連隊衛生隊長、当院前任診療科部長、当院診療技術部研究検査課長7名のパネリストによる発表の後、人材育成に関する現状と課題について討論を行い、任務・役割及び時代の要請に応じた人材育成、一般の有資格者と遜色のない技能の維持、救命ドクトリンを達成するための運用のスペシャリストの養成等について活発な討論が行われました。以上の講演等によって、本集合訓練の目的である、「衛生科隊員の衛生科部隊運用、治療・後送、健康管理、メンタルヘルス、防疫及び衛生器材等に関する識能の向上」を達成し、新たな時代における衛生の躍進を確信する1日となりました。



前北部方面総監(吉田陸将)による
総監講話



学会長(大鹿陸将)による開会挨拶



パネルディスカッションにおける討論

《行事紹介》

自衛隊札幌病院医療情報システムの換装

令和2年2月14日（金）・15日（土）、自衛隊札幌病院は、病院の診療・検査・会計等の業務遂行の基盤を維持するため、5年ぶりに医療情報システムの新システムへの換装を行いました。

病院は、本システム換装事業を今年度の主要事業として位置づけ、年度当初から病院各課等の担当者により新医療情報システムプロジェクトチーム24名を編成し、10月から換装業者と綿密に調整・準備を推進し、14日（金）診療時間終了後の2000から15日（土）0800まで、現行システムを停止してデータ移行作業を行いました。

15日（土）0800から旧端末の撤去及び新端末の設置作業を行い、設置後は、病院職員と換装業者による器材点検、院内運用テストを行い、稼働判定を実施して、1800に新システムへの換装を完了しました。

業務遂行基盤を確立し、災害、停電の発生、器材の障害やシステムの不具合の発生など考えられる不測事態への対処要領を確立して切り替え作業を行った結果、17日（月）から無事に新システムでの診療を開始することができました。



新システムの設置作業



院内運用テスト



病院長（大鹿陸将）と業者による稼働判定

《訓練紹介》

第44期初級陸曹特技課程「准看護師」患者後送訓練

自衛隊札幌病院 准看護学院（学院長：高橋1佐）は、令和2年6月25日（木）丘珠駐屯地において、初級陸曹特技課程「准看護師」第44期生24名に対し、北部方面航空隊の支援を受け、多用途ヘリコプター（UH-1J）による患者後送訓練を実施しました。

航空隊から安全教育を受けた後、担架員4名、患者1名の5名をもって訓練班を編成し、患者の搭載・卸下訓練では、2種類の搭載要領と患者吊り下げ装置（ホイスト）を使用した患者搭載要領を演練、約15分間の飛行間、機内救護においてはバイタルサイン測定等の患者観察コミュニケーション及び、与薬（点滴）要領を演練しました。

学生は、担架員4名が呼吸を合わせた搬送により、安全確実な搭載・卸下を実施するとともに、飛行間の機内救護では、振動や騒音が大きい機内において、コミュニケーションの難しさを体験しながら、バイタルサイン測定等を実施して、衛生知識・技能の向上を図るとともに、患者後送における安全管理の重要性を学びました。



ローターブレード固定下の患者搭載



吊り下げ装置（ホイスト）による患者の搭載

豊友会長交代(下番)挨拶



緊急事態に備えて木々の緑が一層濃くなってまいりました。

皆様におかれましては、ご壮健のことと存じます。

皆様の御支援を頂きながら、約7年、豊友会会長を務めてまいりましたが、この度、黒澤洋一先生に会長を引き継ぐことになりました。

黒澤会長のもと、良き伝統を守り、豊友会をさらに大きく飛躍していただきたいと思っております。今後とも、御支援の程よろしくお願いいたします。

この7年の間には、日本では色々な出来事がありました。2012年、京都大学の山中伸弥教授がIPS細胞で医学生理学賞を受賞されたのを初め、7人の日本人ノーベル賞受賞者が輩出されました。そして、2019年2月には、日本の探査機「はやぶさ」が小惑星「リュウグウ」に着地成功する快挙を成し遂げる等、良いニュースがありました。半面、大型台風と豪雨の多発、2014年の御嶽山噴火、それに、2016年の熊本地震、2018年胆振東部地震など自然災害が頻発し、多くの犠牲者が出ました。今年になってからは、COVID-19の世界的な大流行。それぞれの災害に自衛隊は派遣されている。そして、今では、被災された方々に「自衛隊が来てくれたから安心だ」と言われるまでになっています。

「災害は忘れたころにやってくる」という言葉があるが、最近の自然災害は「まさか・・・」「想定外」と言われるような災害が多く、地球環境が変わってきた今、日頃より「危険予知能力」を磨いて、危機に対処する必要性が増している。そして、自衛隊が常に最悪の場合を想定して、繰り返し行っているような対処訓練の大切さを感じる。

新型コロナウイルス対策をめぐる政府の初動の遅さや、厚労省の対応のまずさが問題とされる中、あまり多くは報道されていないが、自衛隊中央病院を中心として、自衛隊衛生の活躍が際立っている。それは、自衛隊中央病院への新型コロナ患者受け入れ支援、政府チャーター機による中国からの日本人輸送機内での検疫支援、クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号船内における調剤支援及び患者搬送支援等。そして、唾液を用いたPCR検査の実用化への貢献。こんな中、特筆すべきは、新型コロナ感染者に数多く接しているにもかかわらず、関与した隊員に一人の感染者すら出ていないことであり、これは、大いに称讃に値する。こうした緊急事態が起こることを常に「危機意識」を持って、地道に訓練を繰り返している成果であり、さらに優れた指揮官による統率された組織行動の当然の結果でもあろう。ここでも、「統率力」「組織力」の大切さを痛感するのである。これは、PKOにおいて一人の犠牲者も出していないことにも相通ずるものがある。

日頃から、どれだけ備えているか。指揮者としての危機感と緊張感を保持し続けているか。いざというときに、何があっても決断できるか。新型コロナウイルスへの各国の対応ぶりを見ると、それぞれの指導者の実情が判かる。アイルランドやシンガポールの首相、ドイツのメルケル首相などは危機をいかに乗り越えるか、国民に直接語り掛けています。

国民が不安になっている時に、災害対策はもちろん、感染対策においても自衛隊の有用性を改めて強く感じるのである。

そして、緊急事態に備えるためにも、目の前の出来事に一喜一憂しないことが大切です。感染の第2波、第3波による医療崩壊を避けるためにも、我々としては、「危機意識」を持って、人混みを出来るだけ避け、マスクの装着、手洗い、うがいなど清潔感のある生活習慣を実践しましょう。さらに、睡眠を十分とる等、自己免疫を高めることに努めながら、ワクチンのできるのを待ちたいと思う。

最後になりましたが、会長在任中は、公私にわたり御高配を賜り、深く感謝申し上げます。今後は顧問として、豊友会のために少しでもお役に立ちたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

皆様には、今夏も元気にお過ごしになられますよう祈念しております。

前豊友会長 古家 隆司

【新型コロナウイルス集団感染予防】

3つの密接を避けましょう

- 1 換気の悪い《密閉》空間を避けましょう
- 2 多数が集まる《密集》場所を避けましょう
- 3 間近で会話や発声をする《密接》場面を避けましょう



事務局長交代(下番)挨拶

豊友会会員の皆様お元気でしょうか、今年はコロナ禍で大変な思いをされて生活されていることと思われませんが、無事にお過ごしのことと思います。

この度事務局長を5年弱させて頂き、三井氏に申し送り下番させていただきました。事務局にはアドバイザーとして1年間在籍することとなりました。

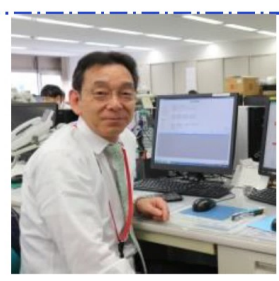
微力ながら協力させていただきます。5年前突然事務局員から豊友会を立て直さなければいけない、会長が是非竹村にお願いすると言っているとの事で一緒に仲間に入ってやってほしいと懇願され、事務局員の経験もなく何もわからない状態でしたが、会長に恩義があり断るわけにはいかないと引き受けた次第であります。しかしながら中身を見てビックリしました。会計の帳簿は0円ではなくマイナス決算で、これからどうやって事業を行えば良いのか唖然としました。

前任者からの申し送りとして置いて行かれた物はA4-2枚とちょっとしたデータのUSBのみでした。

それからは事務局員を増員し、みんなで一丸となって規則の改正、会員の増員を図り会費の未納者を把握し会計簿冊を整備し納入していただくよう働きかけ経費を確保し、会誌は以前2回印刷会社に一任し依頼しており年間16万円かかっていたものを自分達がパソコンで作成し、ラクスルに依頼し年3~4万円で仕上げる等経費を浮かせ、会費の蓄積を確保して行き現在は十分な余裕を持てる予算となりました。各事業においてもそれぞれ任務分担し複数人指名し、事務局長一人に負担がかからないようにし、交代時はそれぞれの業務に穴が開かない様に交互に交代者を指名し業務の継続を図っています。今までも交代を実施しておりますが今後も逐次任期ごと交代を実施し新陳代謝図るよう努めていますので今後とも、ご理解とご協力の程宜しくお願い致します。

この会誌が届く頃には通常の生活に戻り、また皆様とお会いでき楽しく新年会・懇親会ができることを祈念します。今までのご指導ご協力に感謝いたします。

元事務局長 竹村 晃良



自衛隊札幌病院准看護学院第5期生



時を越えて...

令和2年2月准看5期生がコロナウイルス対応に入る直前に同期叙勲授賞を機会に久しぶりの同期会を開催しました。当時の斉藤教官(会員)含む12名が参加し盛大に実施されました。卒後39年の時を越えて当時一番若かった隊員も還暦を過ぎ、それぞれが外見の変化だけでなく、立派な社会人となり、この日に集い叙勲受章者(後藤氏・外山氏(会員))の労をねぎらい、また各人の現況等を紹介して、20代からの「絆」を再確認しました。

文責 会員 松倉富士人(南区)

1 事務局長挨拶

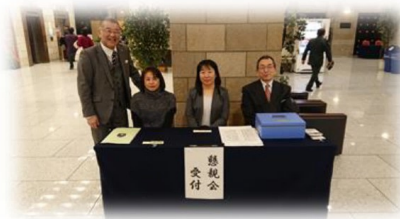
会員の皆様には、日頃から自衛隊札幌病院豊友会の活動にご協力いただきありがとうございます。この度、竹村事務局長から事務局長を引き継ぎました三井です。引き続き豊友会を盛り立てて行きたいと思っておりますので今後ともご協力宜しくお願いいたします。

今年は、新型コロナウイルスの影響により、オリンピックをはじめ様々なイベントが、中止、延期され、豊友会においても6月に予定されていた自衛隊札幌病院創立65周年記念祝賀会・豊友会懇親会並びに定期総会も見送らざるを得ない状況となってしまいました。コロナ禍が落ち着き再び皆様とお会いできることを楽しみにしています。

2 活動状況

(1) 令和元年度北部防衛衛生学会懇親会支援を実施（令和2年1月29日）

防衛衛生学会受付



(2) 令和2年度役員会・臨時総会

ア 令和2年4月11日（土）20名の役員の参加を得て自衛隊札幌病院会議室において、令和2年度豊友会役員会を開催した。

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から定期総会の開催は困難と判断し本役員会を臨時総会として開催。

手指消毒をしてマスクを着用し、各人の間隔を広くとり、窓を開け、換気しながら前年度事業報告・収支決算報告及び今年度の事業計画・予算計画等を審議・承認。

イ 役員交代

新会長に黒澤洋一氏就任。 新副会長に鳥越俊彦氏就任。前会長古家隆司氏は顧問に就任。

令和2年度豊友会役員会



(3) 慶弔等

ア 春の叙勲受章者：瑞宝双光章：柏葉祐司様、瑞宝単光章：瀧本敦彦様、三瓶真由美様。

イ 弔事：酒向劉三様（87歳）令和2年5月17日逝去。

会則に基づき香典等の送付を実施し弔意を表しました。（ご冥福をお祈りいたします。）

3 令和2年度予定

(1) 新年会（コロナ禍の状況による）

令和3年1月上旬予定、場所：ホテルライフオーブト予定。

(2) 豊友誌の発行：年2回（8月・1月発行予定）

(3) 長寿者記念品贈呈者は満年齢に変更したため令和3年から再開。

4 令和2年1月から現時点までの豊友会入会者（2名）

青木浩司様、中田浩嗣様。